

# B511 ポーセラーツ インストラクターカリキュラム【転写紙コース】テキスト 訂正・変更点のご案内

この度、B511『ポーセラーツ インストラクターカリキュラム【転写紙コース】テキスト』につきまして、内容に誤りのあった箇所を訂正し、わかりやすくするために説明等の追加、レイアウト変更などを行いました。ご確認いただき、生徒様へ伝達くださいますようお願いいたします。なお、技術内容には変更ありません。

## 7ページ 「代表的な磁器3種の比較」表内

誤)ニューボーン New Bone(軟質磁器) → 正)ニューボーン New Born(軟質磁器)

## 23ページ ページ最下に次を追加しました

写した図案、アタリや印などは焼成前に消します。残したままだと、焼き付いたり跡が残ったりする場合があります。

## 27~28ページ 「分解と構成を使った貼り方」

わかりやすくするために、次のように写真を追加してレイアウトなどを変更しました。

### 分解と構成を使った貼り方

より完成度の高い作品に仕上がります。

柄転写紙は絵柄をそのまま貼るだけでなく、絵柄の一部分を切り取ったり(分解)、いくつか組み合わせる(構成)ことでオリジナルの構成(形状・絵柄)が生まれます。

分解と構成をすることで作品デザイン全体のバランスを取ったり、ボリュームを出したり、曲面や球面に貼りやすくなります。また分解と構成のバリエーションとして「変形」や「見立て」をすることで、独自の絵柄を作ることができます。

#### 1. 分解

1つの絵柄をパーツごとに、複数に切り分けること



#### 2. 構成

複数の絵柄を組み合わせ、1つの絵柄に組むこと



#### 3. 分解・(再)構成

1つの絵柄をパーツごとに切り分け、元とは違う絵柄(形)に組み直すこと



#### 分解・(再)構成のバリエーション

##### 【変形】

元々の絵柄をそのまま活かしながら、全体を別な形状に組み直すこと。

(例) ボーダー状のバラをハートのリースに組み直した



##### 【見立て】

柄の形状を利用して、元々の絵柄とは関係性のない、別の柄に組むこと。

\* 柄転写紙の色のみを利用したり、柄転写紙で輪郭を取ったりすることは見立てになりません。

(例) 葉とつぼみで蝶に見立てた



35ページ 「■窯詰めの前に」の項の7行目に波線部分を追加しました。  
2.白磁に汚れ(写した図案や印、アタリ線なども)や不要な転写紙(切れ端)などが…

36ページ 「窯詰めテクニック」  
わかりやすくするために、次のようにレイアウトなどを変更しました。

### 窯詰めテクニック

作品を傷めず、焼成による失敗がないように窯詰めします。

大きさや形状が異なる作品を焼成する場合、プレートなど並べると場所を取るものは支柱を置いて段差を作る(段組み)と、一度にたくさんの作品を焼成することができます。

段組みする時には、支柱を3〜4点バランスよく置きます。

- \* 作品は重ねず、また縁など施釉してある部分が他の作品や焼成器具、窯の壁面や熱線、温度センサー(熱電対・サーモカップル)に触れないように気を付けます。
- \* 必ず支柱の上に糸底など施釉されていない部分に乗るようにして、バランスよく置きます(特にポンチャイナなど釉薬が軟らかい場合は跡が付いたり、釉薬がゆるんで支柱にくっつく場合があります)。
- \* 棚板を入れる時は温度センサーに触れないように気を付けましょう。



上扉式



前扉式



段組み(例)

「■焼成ラックの使い方」1行目…「磁器製」を削除しました。  
磁器製プレートなどの…

「■焼成ラックの使い方」3行目…「ガラスには使用できません。」に下線を引きました。  
\*ガラスには使用できません。

43ページ 「柄転写紙2 <sup>うらじろ</sup>裏白転写紙 裏白」の項の最後に次を追加しました。  
\*白のみで刷られたものは裏白転写紙ではありません。

以上